

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年 3月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104258
法人名	株式会社さくら会
事業所名	グループホームさくら
所在地	鹿児島市福山町958番地1 (電話) 099-278-0550
自己評価作成日	平成31年2月22日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成31年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①管理栄養士によりカロリー計算された食事を提供し、10時と15時には施設で栽培収穫したさつま芋を使ったおやつ等を提供しています。食生活面からの健康管理を実施し、個々のニーズにも対応しています。
- ②何よりも利用者様を第一と考え、皆様に安心して楽しい生活を送って頂く為、誠心誠意、心をつくした支援に努めています。
- ③施設には自家発電の設備を整備し、スプリンクラーも設置して防災、防火対策を強化しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田畑や茶畑などの自然豊かな環境に囲まれたホームは小規模多機能ホーム・有料老人ホームと隣接して建てられている。居室の窓からは、四季折々の変化を毎日眺めることができ、庭に植えてある樹木や広いウッドデッキから見える東屋など、お茶会や庭の散策等を自由に楽しむことができる空間が広がっている。

管理者及び職員は、「心～地域の方々にもやさしい心をもって接しましょう」という理念の基に、利用者の思いやこれまでの生活歴を十分把握して、お互いを思いやる心でコミュニケーションを大事にして信頼関係を築いている。地域との関わりも大切にして、近隣の保育園の子供太鼓や、あいご会の子供神輿の立ち寄り、誕生会での踊りや三味線・大正琴等のボランティア演奏などを受け入れ、利用者の心の癒しとなっている。

代表者及び管理者は、可能な限り職員が交代で外部研修に参加したり、認知症実践者研修受講や介護福祉士資格取得等に対するバックアップに努めるなど、働きやすい職場環境づくりを通じて、サービスの向上やケアの充実を目指して取り組んでいる。利用者の状態変化はミーティングで情報交換して共有し、予測されるリスクを個別危険予知活動記録で数値換算して、モニタリングや介護計画の見直しの際に活用している。かかりつけ医や協力医療機関の医師との連携を十分に図りつつ、看護師資格を持つ職員がいることで、夜間も安定した対応ができている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ホームは代表者の父親の介護体験をもとに設立され、利用者や地域の方々への配慮を考慮し、理念は「心」を掲げている。月一回のミーティング時に改善、問題点等を話し合い、気づきを通して反省し、職員間の共通理念として再確認している。	認知症ケアにおいて最も大事であると考えている理念「心」はユニット入り口に掲示し、毎月のミーティングで振り返り、気づきを通して職員間で確認しあい、目線の高さを合わせて対話するなど日々の支援の中で実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りでの子供神輿の立ち寄りなど、日常的な交流ができるように取り組んでいる。利用者家族や近所の方から野菜の差し入れを頂いたり、常に地域の方々とお付き合いを密にしている。	自治会に加入している。利用者の重度化に伴い、地域活動への参加は難しい現状ではあるが、あいご会の子供神輿の立ち寄りや保育園児の子供太鼓、誕生会での三味線・大正琴等のボランティアによる来訪があり、家族や近隣から野菜等の差し入れがあるなど交流の機会が多い。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	随時、地域の方々からの認知症の相談を受けている。運営推進会議で「認知症」について理解を深めて頂き、地域の高齢者の方々の暮らしに役立つよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の状況、ホームの運営状況が報告され、それに対する意見等、参加者全員で話し合い、ホーム運営に活かしている。4月度の避難訓練には消防だけでなく民生委員の方にも参加してもらい、緊張感のある訓練を実施している。	家族、民生委員、市担当者等が参加して2か月に1回開催している。行事や運営状況等が報告され、受け入れ困難者への対応についても検討している。外部評価の結果は広報紙「さくら便り」を通じて報告されており、家族に対しては認知症の理解促進のための説明会を実施するなど、積極的に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常的に連携を取っており、情報交換を積極的に行い、サービスの質の向上に努めている。	市担当者には、運営推進会議への出席を通してホームの運営や実情等について理解を得て、指導・助言をもらい情報交換を行って協力体制を築いている。生活保護受給者が利用者の約半数を占め、市担当者は2～3か月毎に来訪している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期のミーティング等で勉強会を行い、利用者の状態に応じた対策を検討している。その上で緊急性などが認められる場合は身体拘束廃止委員会を実施し期間を定めて行うようにしている。	毎月のミーティング等で身体拘束に関する勉強会を実施しており、身体拘束への理解を深め、繰り返し確認している。身体拘束が必要な場合は身体拘束廃止委員会を開催し、家族の了解も得ながら利用者の自由な暮らしの支援に取り組んでいる。玄関は訪問販売等の来訪が多いため施錠しているが、居室は施錠装置を外す方向で検討を進めている。地域の見守りや声掛け等の協力体制もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に職員同士で連携を取りながら、利用者の観察に努めている。身体介護（入浴・排泄等）を中心に観察し、小さな変化も出来るだけ見過ごさないように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来るだけ研修に参加し、定期ミーティングにて勉強会を実施している。その他研修等に管理者等が参加し、ミーティング時に職員との情報の共有を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約については急変に基づいたものが主となる為、医療機関と連携し、密な情報交換をすることで家族との検討を進め、理解に繋げている。契約時には介護保険の説明や大体の月額等も説明するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に声掛けを実施し、ホーム内の意見箱設置で家族の意見や要望の出しやすい環境を作っている。家族から得られた意見はミーティングで具体的な取組みを話し合いサービスに反映させている。ご家族にはホーム便りや電話で利用者の状況報告を行い、密な連携に努めている。	日頃から利用者にはまめに声かけして、表情や仕草等から意見や思いを把握するように努めている。家族とは面会や電話連絡の際に意見等を出して貰っているが、意見箱ではなく職員に直接話す家族も少なくない。出された意見や要望はミーティングで職員間の共有を図り、前向きに検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期ミーティングで職員からの意見や提案を聞き、運営に反映している。利用者の笑顔の写真掲示や寸劇は利用者の楽しみであり、職員のアイデアが活かされた場面でもある。管理者は資格取得にも積極的であり、ホームの決定事項も報告し、職員の育成も務めている。	管理者や主任は申し送りやミーティングをはじめ、ケアの場面において職員とのコミュニケーションを密にするよう心がけ、意見交換を通して職場のよりよい環境づくりに努めている。外部研修の参加や資格取得に対して、積極的にフォローして勤務意欲やケアの質の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場で起きている様々な状況や変化を把握し、職員が疲れやストレスを溜めこまないように配慮し、職員が向上心を持って働けるような環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の各段階に応じ、必要な研修については参加を勧め、その内容について定期ミーティングにて職員全員が共有している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣のグループホームとの交流を持ち、運営状況についての相談・連絡を行うことにより、サービスの質の向上を目指している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>傾聴の姿勢を大切にし、本人との関係作りに努めている。また、ご家族にも情報提供の協力をお願いしている。食事嗜好調査を実施している。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の希望、方向性等、家族が何を求めているのかを把握し、不安があればできる限りその不安を軽減できるように個別に調整し、対応している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>身体状況、生活状況を把握し、必要があれば医療機関等、その他の機関との調整を行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人の性格、今まで過ごしてきた過程を尊重し、本人のペースに合わせ、食事の際の座席の配置など工夫をしたり、訴えを傾聴し、時間をかけて関係作りを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日常生活や変化を出来るだけ細かく報告し、ご家族の思いや意見を取り入れ、本人と一緒に支えていく為の協力関係を築けるように努めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活歴を大切にし、墓参りや法事等、家族の協力を頂き、馴染みの人や場所等との関係が途切れないように支援している。	入居時に生活歴や利用者を取り巻く環境について聴取し、馴染みの人や場の情報を把握している。家族や友人の来訪時にはゆっくり過ごして貰えるように職員は配慮し、電話や手紙の取り次ぎ、家族の協力での法事参加、一時帰宅、墓参り等への支援も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の心身状況や感情でもお互いの対応の仕方が変化する可能性がある為、職員は常に注意深く観察し、利用者同士の関係がうまくいくように調整役となっている。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に入院加療となった方へは、定期的に家族と連絡を取り合い、訪問やモニタリングを実施している。 また、相談内容に応じて紹介や調整を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望の把握に努め、意思疎通が困難な利用者にもその都度、表情や所作から根気強く思いや心を汲み取る努力をしている。職員間で情報を共有し、家族の意向に沿いながら、かつ利用者本位の支援に努めている。	利用者の思いや意向は利用開始時に利用者や家族から聴取したり、日常の言葉や表情・仕草等から把握するように努め、申し送りやカンファレンス、業務日誌等で職員間の情報の共有を図り、その人らしく暮らし続けられるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期アセスメントの中で記録化し、スタッフ間で共有している。まめに家族と連絡を取り合い、情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの少しの変化を出来るだけ注意深く観察し、本人のペースを尊重しながら出来ないことに手を差延べている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期ミーティングで利用者の状態を把握し、医師や各専門職と情報交換を行い、ケアの方向性を決定している。各利用者のリスクを数値で換算した個別危険予知活動記録を作成し、評価や見直し時に活用し、現状に即した介護計画の作成に努めている。	利用者及び家族の思いや意向、医師や看護師等の情報も把握し、職員間でも意見交換し、利用者の個々の状況に応じた介護計画を作成している。利用者の状態変化はその都度確認し、予測されるリスクを個別危険予知活動記録で数値換算し、病院受診綴りや看護日報綴りも活用して、モニタリングや介護計画の見直し・修正を行い、実状に即した介護計画となるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録の中で状態に変化があれば、その都度話し合い、計画に反映している。 急を要するような場合には、適宜、個人に合ったケアを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の日々変化する状況に応じて、職員全員がその変化を共有し、その時々で最善のケアを提供できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者のプライバシーに配慮しながら、ボランティアや学生の慰問を積極的に受け入れ、年間行事では各関係者へ協力を依頼している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診をしているが、ホームの協力医療機関の往診もある。緊急医療機関や専門医療機関との連携も取り、利用者や家族の安心が得られ、適切な医療が受けられるように支援している。	利用者が希望するかかりつけ医の受診を支援しているが、十分な連携が図られている協力医療機関の訪問診療も定期的に行われている。眼科や耳鼻科等の受診時には家族に同行してもらうなど、安心できる受療体制が構築され、適切な健康管理がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員を配置し、常に利用者の健康状態や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。また、必要に応じて医師等に電話連絡を取り、指導をもらっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院の際は、出来るだけ本人の混乱を避けられるよう、医療機関との情報交換を行い、なるべく早期に退院できるように努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時にホームで行える最大限のことを説明し、状態変化の都度、家族やかかりつけ医と検討し、方針を共有して支援を行っている。</p>	<p>重度化や終末期の方針については、入居時に「重度化及び看取りに関する指針」により、本人や家族に説明して同意を得ている。ホームとしてはどこまで支援ができるかを明確にし、必要時には医師や看護師等の関係者も含めて話し合い、可能な限り希望に沿った支援ができる体制を取っているが、看取りの状態になる前に訪問診療等を経て入院となることが多い。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>ミーティングにて、急変時での応急手当に関する勉強会を実施しており、日常的にも看護師により他職員に指導している。その他消防を招いての応急手当講座を実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署指導のもと隣接した小規模多機能ホームと合同の災害訓練を年2回実施している。避難経路の確認、通報、消火訓練など緊急時の意識を高める訓練を行っている。自家発電やスプリンクラーの整備や食料備蓄も行い、ホームを地域住民の避難場所として開放する準備もしている。</p>	<p>消防署の指導の下に民生委員の参加を得ながら、隣接の小規模多機能ホームと合同で夜間想定を含む災害訓練を年2回実施している。消防署への通報と連動した火災報知機やスプリンクラーが設置され、飲料水や食料、カセットコンロ等は法人で一括して備蓄している。台風時には地域住民の避難場所として、隣接の法人の建物を開放している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者と目線を合わせての会話を指導しており、利用者に対して敬意を持って話しかけるように努めている。記録物等は他者の目につきにくい場所に保管し、居室への訪室にも細心の注意を払っている。	利用者の人格の尊重やプライバシーの確保は、定期的な研修や申し送り・ミーティング等を通して職員間で支援の方法について周知を図り、言葉遣いや対応に配慮して実践に取り組んでいる。居室入口には氏名を表記せず、オムツや排泄チェック表、個人記録等は目につかないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が安心できる雰囲気作りを目指し、利用者が自分の思いや希望を自然に表現出来るような信頼関係作りに努めている。特に意思の疎通が困難な方については表情の変化に注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれの人生経験を尊重し、生活歴、環境に重点をおき、その人らしさを検討した支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	希望者には2ヶ月毎での訪問散髪を実施し、服装、洗顔、整髪、爪切りなどの身だしなみには常に気を配るように努めている。好みの化粧品等を持参の方もいるので、使用を勧めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じテーブルで食事をして、会話を交わしながら、楽しい雰囲気作りに努め、食後はテーブル拭きやお膳拭き等をお願いしている。	入居時に嗜好やアレルギー等を把握し、昼食と夕食は外注食で対応しているが、利用者毎に刻みやミキサーなど食事形態に工夫している。利用者の重度化に伴いできることは少なくなっているが、テーブルやお膳拭き、食材の下ごしらえ等は一緒に行っている。行事食や手作りおやつ、家族との会食など食事が利用者の楽しみとなるように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と摂取量を把握し、水分の摂取に消極的な方にはお茶以外の代替品を提供して水分の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師との連携や毎食後の口腔ケア、就寝時は義歯をはずして洗浄、消毒を行い、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表を参考に利用者それぞれの排泄状況を把握した上で、時間誘導や声かけを行うなど自立に向けた支援を行っている。	利用者毎に排泄チェック表を作成して排泄パターンを把握し、誘導や声かけを通してできるだけトイレでの排泄ができるように支援している。誘導時の声かけや羞恥心にも十分配慮し、利用者の状態に合わせた支援方法を介護計画に組み込んで、日々の支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のための食事やおやつに入れる材料にも工夫している。特に繊維物が多く含まれる芋などをうまく使用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一人ひとりに合わせた入浴時間や、状態を把握した上で入浴して頂いている。本人の着たい物を一緒に選んで着て頂く等、入浴を楽しんでもらえるように配慮している。	週3回の入浴を原則としているが、利用者の状態に合わせて清拭や足浴、シャワー浴等でも対応している。利用者の好みの時間に入浴剤も時々使用しながら、一人ずつゆっくりと対話しながら楽しめるように支援している。入浴後は保湿剤を使用したり水分補給を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの状態に応じ、安静を援助したり、照明や寝具を調整して気持ち良く眠る事が出来るように支援している。また、日中はなるべく体を動かして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の増減が有れば必ず朝のミーティング等で申し送り、職員は服薬状況を把握している。施設毎に個人の薬状を必ず置いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴、趣味に合わせた支援（読書や歌等）を行い、日々意欲的に過ごしてもらえるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身体状況により車椅子や歩行介助にて園内散歩や園庭での日光浴等、自由に散策できる環境にある。桜の季節には東屋で花見を楽しんで頂くなど五感の刺激や気分転換を図っている。家族の協力を頂き、墓参りやドライブ等の外出が出来るように支援している。	利用者の外出に関する希望は日々の支援の中で把握に努め、身体状況に合わせて車いすや歩行介助により園内散歩やドライブ、墓参り、家族との外出等、家族の協力を得ながら支援している。園庭の東屋ではお茶会や季節の花見も開催され、利用者の楽しみとなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>認知症に困り自己管理が難しい為、預かり金としてホームで管理している。個人ごとに出納帳を作成し、家族にも確認してもらっている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>自発的な電話や手紙のやり取りはあまりみられないが、手紙等については家族の承諾の下、職員が代読する場合もある。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>採光は適切に調整している。季節の花を飾ったりカーテンを開けて周囲の景色を眺めて頂く等、四季を感じる工夫をしている。</p>	<p>ホームの周囲には田畑が広がり、窓からは四季折々の田園風景を眺めることができる。ウッドデッキから見える東屋のある広い庭には、色々な樹木や花壇があり、散策等を楽しむことができる。明るく広いホールには季節の花や行事の写真、塗り絵や紙細工等利用者の作品が飾られ、採光や空調にも配慮されている。掘り炬燵のある畳間やソファが設置され、利用者だけでなく職員も含めてくつろぎの空間となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関、リビングにはソファを置き、思い思いに過ごして頂いている。和室となっている談話室には、掘りゴタツやソファがあり、一人ひとりが望む場所で過ごせる。また、テラスから外へ出る事もできる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた寝具や時計、写真、アルバム等を持ち込んで頂き、心地よい環境で過ごして頂いている。</p> <p>本人のペースで片付けて頂き、危険がある場合以外はなるべく手を加えないようにしている。</p>	<p>居室は腰高窓で明るく十分な広さが確保され、トイレ付きの8畳3室、共有トイレの6畳6室があり、ベッド、タンス、ソファ、洗面台、エアコンが備えてある。寝具やテレビ、家族の写真など、馴染みのものを自由に持ち込み、利用者が落ち着いて過ごせる環境となっている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>必要な箇所には手摺が設置しており、声掛けや手引きでの自力歩行を促している。</p> <p>また施設内は歩行や移動、活動の妨げにならないよう、障害物を除いている。</p>			

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない